

葉山臨御橋架け替えプロジェクト

— 赤橋プロジェクト —

臨御橋にまつわる エピソード

ご寄附いただいた方などから寄せられた
エピソードをご紹介します。

主人が8年前に亡くなり生前毎週のように散策、磯遊び、また天皇御一家ともお会いできたこともあり、赤橋はとても楽しい思い出に感謝の思いです。ふるさと納税のことを聞いたときは、少しですが寄附させていただきたいと思います。主人も天国で喜んでいると思います。

(横浜市・女性)

私はそちらに伺ったことはありません。

年齢は86歳です。

もし、臨御橋が完成したときまで存命でしたら、是非伺いたいと思います。

(つくば市・女性)

葉山臨御橋架け替えプロジェクト

ー 赤橋プロジェクト ー

昭和5年5月19日生まれ、88歳です。

完成を見ることも多分ないと思います。

毎年1月2日の一般参賀には必ず参加しています。
4月18日は伊勢神宮へ。よろしく。

(横浜市・女性)

葉山臨御橋架け替えプロジェクト

ー 赤橋プロジェクト ー

我社は、葉山しおさい公園の日本庭園内にある池の清掃を任せていただけてきました。

少しでも葉山町のお役に立ちたいと寄附いたします。どうぞよろしく願いたします。

(横浜市・企業)

現在82歳になりますが、昭和40～50年代にかけて、一色海岸に長男・次男・妻を連れて頻繁に遊びに行っておりました。初めは海岸で泳いでいましたが、そのうち磯遊びから段々と深みにはまっていくようになり、バテイラやトコブシ、ときにはタコをつかまえることもありました。その折、ござを敷いてオニギリなどを食べたのが、この赤い橋すぐ近くの小高い丘の上でした。今回の架け替えであらためて当事を懐かしく思い出しました。（西東京市・男性）

実家は葉山です。

私は7年ほど暮らしていましたが、臨御橋を渡ったことがありませんでした。

海と山に囲まれた葉山が大好きです。

(酒々井町・女性)

20歳の記念に臨御橋を彼と二人で渡りました。御用邸の緑の美しさをバックに、二人とも天皇陛下と皇后陛下になりきって、はんなりと、しなやかに、仲むつまじく手をつないで渡ったことを覚えています。天気も良く最高の思い出の1ページとなりました。昭和、そして令和と元号は変わりましたが、臨御橋は不滅です。平和の象徴として、永遠に輝き続けていただきたいと切に願います。（大崎市・女性）

ー 赤橋プロジェクト ー

戦後、西洋の文明がどんどん入ってきて、人も生活も日本らしさがなくなっていることを淋しく思います。人との関わりも少なくなっている昨今、自然や日本らしさを大切にしたい気持ちが強まっています。私は葉山に行ったこともありませんが、ラジオで聞いて日本の宝を失ってはいけない、大事に守っていきたいと思い、少しの額ですがお役に立てれば幸いです。

(福岡市・女性)

小学生の頃に橋のたもとでよく釣りをしました。一度うなぎが釣れてびっくり、祖父がさばいてくれ、小さなかば焼きにして食べました。

(浦安市・50代)

葉山臨御橋架け替えプロジェクト

ー 赤橋プロジェクト ー

幼き頃、赤橋から、お爺ちゃんが、釣りをして、鰻が
連れた事が忘れられない。

(葉山町・40代)

『臨御橋の思い出』

戦争が終わり、日本の憲兵が御用邸の警護から去り、昭和22年初め頃と思うが大勢の米兵が御用邸の中や通用門に並んだ。海岸側は外に誰も居ない状態で、一色小磯の海岸は大浜側に昭和26年頃迄は行けず、両側で川釣りを行って釣ったものを食べる生活であった。その頃に、昭和天皇が葉山御用邸に行幸される様になり、大潮の時には、南門からお茶寮を通り小磯海岸に、

中折れ帽子に半袖シャツで御出ましになり、私達子供に御声をかけられる時がしばしば有る様になった。その頃から御用邸の警備が始まり、橋が架けられた、昭和30年頃の臨御橋の姿と思う。橋が出来て本邸と南邸の外回りの通行が可能になったが、台風の度に飛ばされないか見に行きながら、川での遊びが広くなった思い出が有る。 (葉山町一色・打鯖 T・葉山様)

葉山臨御橋架け替えプロジェクト

ー 赤橋プロジェクト ー



← 昭和30年ごろの臨御橋

(葉山町一色・打鯖

T・葉山様提供)

葉山は山・川・海と3つの自然がコンパクトにまとめられています。令和天皇・皇后様は山がお好きなようです。

葉山にも仙元山・森戸川・下山川もあり、山川を綺麗にして海もきれいになりジオパークのような自然公園にして、臨御橋も完成し両陛下に葉山も好きになって頂けるようお願いします

(葉山町・S様)